中世伊予における地域社会

社会科教育講座・川岡勉

この授業は，人間社会デザインコースにおける選択必修科目として初めて開講するもので，対象は同コースの２回生である。受講者は４名であった。

授業は日本史の流れと日本社会の特質を理解させることを目的とし，(1)瀬戸内海・伊予を舞台に展開した地域の歴史に関する基礎的な知識を獲得する，(2)地域史を他の地域や国家・世界との関わりにおいて捉える視点を獲得する，(3)地域の歴史を踏まえて，これからの地域のあり方や改革の方向について，自分の考えをまとめ論述する力を身につける，という到達目標を設定した。

授業の構成は，次のとおりである。

1　日本史における地域史の重要性
2　地名と地域社会
3　鎌倉時代の河野氏と伊予
4　室町時代の河野氏と伊予
5　戦国時代の河野氏と伊予
6　伊予の中世城郭
7　湯築城の立地と松山平野
8　伊予の中世遺跡と湯築城跡
9　出土遺物からみた湯築城跡
10　湯築開城と統一政権
11　文化財保存運動の展開
12　研究発表１
13　研究発表２
14　研究発表３
15　試験

授業の進め方として，最初の２回は地域史とは何かを説明し，地域史の重要性や地域史を捉える視座について講義を行なった。3 講～11 講は，川岡勉・島津豊幸編『湯築城と伊予の中世』（創風社出版，2004 年）をテキストとして用い，これに基づいた講義を行なった。受講生には，あらかじめテキストを読んでくることを課し，彼らの理解度を確認しながら授業を進めるように留意した。また，テキストの内容を深めるために，適宜，必要な資料を掲載したプリント類を配布した。

テキストを通じて伊予における中世の歴史を学んだ後，各自が住んでいる地域や関心ある地域について調べて，研究発表を行なう時間を取った。学生たちは，道後温泉の歴史，伊予市の歴史，尾道の歴史，広島の歴史をテーマに取り上げて報告を行なった。それぞれ熱心に地域史の研究に取り組み，ほとんどの学生がパワーポイントを活用し，自分で撮影した写真を紹介するなど，工夫をこらした発表を行なった。

最後に試験を行ない，授業中の態度や研究発表などを加味して成績評価を行なった。

アンケートをとって，授業改善に向けて意見を聴取したところ，地域史というテーマ自体が興味のわく内容だったようで，身近でありながら知らないことが多くて発見があったと答えた学生が少なくなかった。今回の授業を通じて地域史の面白さを伝えることはできたと思われるが，テキストが道後地域に限定した内容であったため，他の地域も取り上げて欲しいという声が寄せられた。次年度以降，テキストの選び方も含めて，授業内容の再構成を図っていきたい。

研究発表の形式を取り入れたのは好評で，意欲的に取り組むことができたようである。但し，年度初めにシラバスを作成した時点では研究発表は予定しておらず，受講生に発表を用意するように伝えたのも遅かったため，もう少し前に言ってくれたらしっかり準備ができたのに残念だという声が聞かれた。

日本史と言えば京都が舞台であったり，中央政府の動きが中心になったりして，地域の歴史にはほとんど目が向けられていないのが現状である。そのために，歴史は自分たちには縁遠くよそよそしいもの，関係ないものという見方が生まれがちである。そうした見方を克服し，１人１人が歴史を切り開く者としての主体性や能動性を身につけていく上で，地域史の学習は大きな可能性を持っている。地域の素材を手がかりに歴史を復元する技法や能力を育成するために，工夫を重ねていきたいと考えている。